場所　東京都港区

面積　0.64ha

活動目的　地域の生物多様性保全に貢献するとともに、地域の方々が自然に親しみ環境への関心を深める場を作ることを目的とする。



サイト概要

本サイトは、港区立有栖川宮記念公園内に位置する池周辺の水辺環境である。

麻布台地の変化に富んだ地形を生かした環境となっており、周囲を樹林で覆われている流水域と、趣ある日本庭園の景観を有する止水域とで構成されている。

日常的に多くの区民が訪れる本サイトは、生きもの観察会などの環境教育の場としても活用されるなど、都心では貴重な豊かな自然を感じられる空間となっている。

土地利用の変遷

有栖川宮記念公園は、江戸時代は盛岡南部藩の下屋敷として使われており、1896年（明治29年）に有栖川宮家の御用地となる。
1934年（昭和9年）に東京市に賜与され、記念公園として一般開放された。
1975年（昭和50年）に港区に移管され区立公園となり、現在に至る。

サイト周辺の環境

都心では貴重な緑を有する有栖川宮記念公園内に位置し、サイト周辺には低木から高木まで多層構成の樹林地が広がり、水域と連続して生物の生育・生息の場を形成している。公園周辺は住宅街に囲まれ、学校や寺社が点在し、古くからの自然環境も残されている。

アピールポイント

魚類や底生動物など水生生物の生息環境だけでなく、トンボ類の繁殖、アオサギやコサギなど水鳥の採餌環境にもなっているほか、冬季にはオナガガモの越冬地としても利用される環境となっている。また、生きもの観察会や生物調査の際には多くの利用者が集まるなど、区民や子どもたちが自然に親しみ環境への関心を深める場となっている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは有栖川宮記念公園内に位置しており、周囲を樹林で覆われている流水域と、趣ある日本庭園の景観を有する止水域とで構成されている。都心では貴重な豊かな自然を感じられる水辺周辺は、在来種を中心とした多様な動植物の生息・生育の場となっている。

【主な植生】

広葉樹林（イロハモミジ、スダジイ、ムクノキ、エノキ、リョウメンシダ、ベニシダなど）
水辺環境（ミズキなど）

【確認された主な動植物など】

●植物
ヤブツバキ　*Camellia japonica*、　コナラ　*Quercus serrata* ssp.*serrata* var.*serrata*、
タブノキ　*Machilus thunbergii*、　アズマネザサ　*Pleioblastus chino*、
ケヤキ　*Zelkova serrata*、　ムラサキシキブ　*Callicarpa japonica* var.japonica、
ムクノキ　*Aphananthe aspera*、　スダジイ　*Castanopsis sieboldii* ssp.*sieboldii*、
エゴノキ　*Styrax japonicus*

●動物
オオシオカラトンボ　*Orthetrum melania*、コシアキトンボ　*Pseudothemis zonata*、ヤマトシジミ本土亜種　*Zizeeria maha argia*、アオスジアゲハ　*Graphium sarpedon nipponum*、ナミテントウ　*Harmonia axyridis*、ニホンミツバチ　*Apis cerana japonica*



写真の説明：観察会の様子



写真の説明：オオシオカラトンボ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは有栖川宮記念公園内に位置しており、周囲を樹林で覆われている流水域と、趣ある日本庭園の景観を有する止水域とで構成されている。都心では貴重な豊かな自然を感じられる水辺周辺では、環境省と東京都が指定するレッドリスト又はレッドデータブック掲載種が多数確認されている。

【確認された希少種】

確認された動植物は以下のとおりである。

【植物】　５種
【動物】　４種

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

キセキレイ、アオサギ及びダイサギなど水辺環境を好む留鳥のほか、オナガガモやキンクロハジロなどの冬鳥やキビタキなどの夏鳥も来訪しており、多様な鳥類が訪れる空間となっている。
また、コシアキトンボなどのトンボ類、魚類、底生動物などの水生生物の繁殖も見られるなど、貴重な生育環境となっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

●鳥類
・オナガガモ　*Anas acuta*：越冬
・キンクロハジロ　*Aythya fuligula*：越冬、採餌
・アオサギ　*Ardea cinerea*：採餌
・キビタキ　*Ficedula narcissina*：移動（渡り）の中継地
●水生生物
・カワニナ　*Semisulcospira libertina*：繁殖
・オニヤンマ　*Anotogaster sieboldii*：繁殖
・オオシオカラトンボ　*Orthetrum melania*：繁殖
・アメンボ　*Aquarius paludum paludum*：繁殖



写真の説明：コシアキトンボ（成虫と幼虫）



写真の説明：アオサギ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

〈活動目的〉
地域の生物多様性保全に貢献するとともに、地域の方々が自然に親しみ環境への関心を深める場を作ることを目的とする。

〈活動内容〉
・高中木：手入れや除草、病害虫防除等を適宜行い、定期的に樹木診断も実施。
→健全な樹林環境を維持し、生息する動植物に安定した生息環境を供給する。
・低木・地被類：手入れや除草、病害虫防除等を実施。
→低木の繁茂を抑えることで、水域や林床への光の供給を維持する。
多様な在来草本からなる環境を維持し、豊かな動植物相の形成を促す。
・菖蒲田：除草や施肥、花柄摘み等を実施。
→チョウ類や送粉昆虫を呼び込み生物相を豊かにする。
・池：水面清掃を適宜実施し、概ね10年に１度池の浚渫も実施。
毎年夏場には、水生生物の生物調査及び外来生物駆除作業も実施。
→池の中の動植物の生息環境を維持する。
・現場の変化や問題へ迅速に対応するため、日常的に巡回点検を行う。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
植物、ほ乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物

【モニタリング場所】
サイト範囲及び周辺（有栖川宮記念公園）

【モニタリング手法】
・環境調査会社による任意踏査、任意採集による確認種の記録
・区民等ボランティアの参加による生物調査

【モニタリングの実施時期及び頻度】
・5年に1度、全種調査を実施、調査時期は年4回（春夏秋冬）予定
（植物、ほ乳類、鳥類、爬虫類及び両生類、昆虫類、魚類、底生動物）
・毎年、生きもの観察会に合わせて生物調査を実施

【モニタリング実施体制】
環境調査会社
在住者、在勤者及び在学者